

The Reminiscence of Exellia NG+1

終わりへの路

作成レギュレーション

基本概要（新規／継続）

- ・ 経験点：133500／145000 点
- ・ 資金：258000／282000G
- ・ 名誉点：1500／1800 点
- ・ 成長回数：267 回
- ・ レベル制限：13
- ・ アイテムレベル制限：武器ランク S 以上
- ・ 推奨：防具ランク S 以上
- ・ ステータスリミット：各項目ボーナス 13（+増強増分 1）まで

制限事項

- ・ ヴァグランツ、蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0／2.5 標準流派入門・使用禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限
- ・ シナリオの成長回数が 10 以上の時、60%以上の偏重割り振りの禁止
- ・ 戦利品判定は振ってくれ（懇願）

その他注意事項

- ・ 制限を逸脱した成長を行った PC は、レベルシンクが行われます。
レベルの上限を突破した成長を行った場合、レベルが下限に合わせられます。
ステータスリミットの制約を無視した成長を行っていた場合、成長の振り直しが行われます。このとき、キャラクターシートのデータは振り直し後のものになります。
- ・ 成長回数の制約を逸脱した成長を行っていたキャラクターシートが見られた場合、このキャンペーンは強制的に終了します。

動画用メモ

レライエの後見人

レライエ自身は『人間』と勘違いしているようだが、その答えは『知の都の賢人』のひとり『ランスロット・クラディウム』。

アビスボーンであり、ロストナイツ王国のとある流派を研究していた研究者でもある。

『魔闘流の賢人』とも称される。秘奥魔法の存在を実証しており、それによって『秘奥機術』と呼ばれるオーバーテクノロジーの存在に気付いている。

余談ではあるのだが、この世界のアールグレイというには語弊すぎる人物で、また同様に『とある規格外の存在』とは無関係と言える。文字通り、この世界の住民。

紫髪黒目、アビスボーンの魔拳士。男。NPC としての本格登場は、蒼天編（Patch 3.4～3.55 付近）

装備としては、道士シリーズに準ずる。また、武器デザインは「アスフォデロース・ナックル」に準ずるが、グリモワールデバイスのための球形物体が取り付けられている。

ちなみにこいつがレライエにとんでもない毒物の知識を叩き込んだ。とはいえ黒薔薇に辿り着いたのは想定外だが。

その他メモ

レライエの後見人

レライエ自身は覚えていないが、レライエに毒の知識を教えた先生的な存在がいる。

現段階で存命であり、「魔闘流の賢人」と呼ばれている。

龍姫公の殺意

龍姫公を知る者から、彼女の殺意について聞くことができる。

彼女は裏切り者などには明確に殺意を向けており、エクセリアにも同じように殺意を向けている。彼女は、エクセリアが敷いた政策の下に支配された龍刻連邦を滅ぼし、新たな龍刻を、自分の手で作ろうとしているのだろう。

導入

荒廃したフレイディア

龍姫公による、フレイディア焼き打ちから数日後。

君達は、行方不明者の捜索に駆り出されていた。

（※GMメモ：RP 待機）

瓦礫の下に、凄惨な死体が転がっていることが多かった。

一応は国の長であるはずだった龍姫公が、ここまでの仕打ちをする。

君達にとって、それは衝撃が凄まじい内容であった。

そんなときだ。

君達のもとに、セレネが訪れた。

セレネ

「星海から、拾い物が。隠れ家に戻って欲しい」

<hr>

セレネは、持って来た魔動機を起動すると、白い壁面に映像が映る。

最初、ホワイトノイズが走るが、すぐに明確な像を結ぶ。

????

「やれやれ、まさか未来にとんでもない事象が起こるとは想定していなかったよ。

はじめましてだな、未来に生きる英傑君」

その声は、女性のような声だった。しかし、映像に映る声の主は、一向にこちらへ向こうとしない。だから、彼女が一体何者なのか、声だけで判別することは不可能だった。

どうしても判別を試みたい場合、見識判定に6ゾロで成功する必要がある。

(※GMメモ：仮に成功した場合は、その人物が『這い寄る混沌』であると、そのPLにのみ明言する)

世界線の記録者

「私は…まあ、世界線の記録者とだけ名乗っておこう。これは、私が知る最果ての聖王に向けて、この記録を星海に流すものとする。

これまで、世界線は多くの歴史に分岐をし続けてきた。だが、この世界線は違う…。

この世界線は、私が知る世界線の中でも初めて、『歴史の分岐』において正の方向へ、続いていく方向へ分岐した」

映像では、分岐に失敗し、潰れ、黒くなって潰れていく『線』が描かれていた。

『DST』と書かれた『分岐』が黒く染まり、続けて『DSTRE』が黒く、『DSTREA』が黄色に染まってその後暗転し、『DSTRV』が黒く染まり、そして『TREx』へと移る。

その『TREx』も、分岐に失敗して黒く染まった。

世界線の記録者

「だが、TREx 世界線から、篝火世界の段階で分岐を果たした、この世界線は違う。

この世界線では、『神城まどか』と『エクセリア・アウェア』の2名が共存している。

そして、片方がもう片方を食らいつくしたことで、歴史は正真正銘、正転した。

これは私にも、律の干渉があった段階で、考えるのをやめていたが故に、想定することができなかった未来だ」

その言葉が真実なのか、そうでないのか…。

それは、その映像を見るエクセリアの顔を見れば明白だった。

清濁併せ呑み、真実を捉えようとする目。その目が蒼く染まっているからこそ、彼女は『世界線の真実』を見据えていた。

エクセリア

「そうか。召喚獣《コズミック・キューサー》は、そのときの…」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「理たるアルテマが語った、神の力たる召喚獣は8体。イフリート、ガルーダ、ラムウ、タイタン、バハムート、シヴァ、オーディン、リヴァイアサン…。

そこに、コズミック・キューサーは含まれていない。そして…、最果ての聖王としての力は、世界を焼き尽くし書き換える炎であり、それ故に世界線の変動を伴う」

(※GMメモ：RP待機)

己の力の本質を、エクセリアは正しく見つめ直す。

世界線の記録者

「破滅を凌ぎ生き残ったこの世界線には、私達が干渉できない何かがあった。だが、星海には現在も干渉できる。だからこそ、私はこの映像を込めた魔動機を星海に流し、危険を伝えている」

(※GMメモ：RP待機)

世界線の記録者

「故にこそ、警告させてもらう。今後、光を秘めた災厄が襲いかかるだろう」

エクセリア

「光を秘めた災厄だと…！？」

世界線の記録者

「そして、それは『喪失の騎士』の秘伝を継ぐに当たって、お前達が『清算』しなければならない功罪であると言える。光の戦士は、闇を祓うことが使命であろう？」

エクセリアは、その言葉を飲み込んで、目を閉じる。

不自然に黙り込んで、エクセリアは再び目を開き言葉を口にする。

その言葉は音になっていたのだが、魔法文明語でも、魔動機文明語でも、果ては交易共通語や地方語でもない言葉であるようだった。

(※GMメモ：

エクセリアの発言は「篝火世界標準語」。

発言内容は「こいつ…この声の主はまさか、レイ・スカーレットか…？いや、あいつはあの時、文字通り『空気』になったはずなのだが、生きていたのか…？」)

世界線の記録者

「この世界には『都市』もある、君達が蛮神の力に縛られないことを強く願うよ」

そう言って、記録の再生が終了する。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…どういう理屈かは分からないが、それよりも先にフレイディアを見に行こう。既に何人か、『守り手』たちを送ってはあるが…、状況は芳しくないようだ」

<hr>

再び、フレイディア。

生き残りのフレイディア住民

「だ…誰か…！うぎゃあ！？」

旧来派の兵士

「やれやれ。我が主はよっぽど新政権に恨みがあるようだ。

新政権に付き従う『聖王派』の生き残りを、一匹残さず殺せとは…」

旧来派の兵士が、生き残りのフレイディア住民を殺していた。

不動遊星

「何をしている！…来い、シューティング・セイヴァー・スター！」

火事場泥棒のように、生き残りを殺そうとする旧来派の兵士を、召喚獣を駆使して一掃する不動遊星。

旧来派の兵士

「聖王派は全員殺せ！一匹たりとも逃がすな！」

クライヴ

「聖王派だと！？それは、ここの住民達のことか！」

半顕現で、旧来派の兵士達に斬りかかるクライヴ。

旧来派の兵士

「お前も聖王派か！ならば貴様は、粛清対象だ！」

生き残りのフレイディア住民

「やめろ…！命だけは…！」

レギンレイヴル

「下がれ！」

今にも斬りかかれそうだった住民を庇って、パリィを成功させて斬り捨てる、セリーヌと、その召喚獣レギンレイヴル。

…凡そ、大破局後の小康期とは思えないほどのマップーに、君達はドン引きすることになるだろう。

(※GMメモ：RP待機)

「なぜ、同じ国の人々同士が、意味の分からない理由で食い合っているのか」。その悲嘆に心が触れたとき…、少しでも変化が起きた。視界が急速に白転し、封じられた加護の空間が映る。今や雷の加護のみが光るそこで、急に水を司る光のクリスタルが光り出す。

まるで禁断を突き破るかのように、その光は封印を食い破り、水の加護を復活させた。

(※GMメモ：RP待機)

視界が戻ると、そこに小壺頭の全裸の男が立っていた。

アルトウール

「まさか、悲嘆で加護を復活させようとは。だが、未だ2つ。その程度ならば、私を退けることは適うまい」

いつぞやの『祝福無き者』、アルトウールが再来した。

知啓の水瓶

敵：“知啓の水瓶”アルトウール・フォン・バイエルン

勝利条件：なし。死を受け入れろ。

敗北条件：味方のいずれかのHPに85点以上のダメージが適用されること。

ラウンド0（戦闘開始前処理）

アルトウール

「知啓の水瓶の権能には、これまでの道程の宿敵が召喚・特殊召喚しているとき、発動できる効果がある。我が身体能力は、貴様らの能力値の合計となる！！」

(※GMメモ：RP待機)

アルトウール・フォン・バイエルン 攻撃力：無限 守備力：無限 ライフポイント：無限

戦闘終了時

アルトウール

「ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ、アーッハハハハハハハハハハ！！

ギャハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ！！そうだ、所詮、貴様らはその程度の…捨て石にすぎぬ！エクセリアの追想を彩るだけの赤い絵の具！貴様らの鮮血の記憶が、この追想を彩るのだ！」

君達のうちのひとりを掴み、嘲笑うアルトゥール。
アルトゥールが掴んだ対象の胸を貫こうとした瞬間。

不動遊星

「行け、シューティング・セイヴァー・スター・ドラゴン！セイヴァー・ミラージュ！」

いや、手を伸ばした瞬間に、現れたシューティング・セイヴァー・スター・ドラゴンがアルトゥールを撥ねた。

吹き飛ばされつつも、華麗に着地するアルトゥール。彼は、遊星を見て嫌そうな表情を浮かべていた。

アルトゥール

「なぜ、俺に気持ちよく狩りをさせてくれないんだ、不動遊星！」

不動遊星

「…エクセリアからの伝言がある」

その言葉を聞いたとき、アルトゥールの表情が歪んだ。

不動遊星

「『フレイディアの復興支援を行え。この間、祝福無き者としての活動を禁じる』…とのことだ。お前の上司なのだろう？彼女は…」

アルトゥール

「何を！彼女がそんな命を下したのか！？」

(※GMメモ：RP待機)

動揺するアルトゥールだったが、結局特筆すべき反論をせずに撤退していった。
君達に向き直った遊星は、しばし目を閉じ言う。

不動遊星

「お前達も、一旦隠れ家に帰ってくれ。復興作業は俺達でやる」

(※GMメモ：RP待機)

<hr>

帰還後、君達は天を仰ぐ。

これが人の業。くだらない理由で、争わずにはいられない。くだらない理由で…。

(※GMメモ：RP待機)

精神的にくたくただ、君達は一眠りすることにした。

報酬

経験点

このシナリオに経験点報酬はありません。

資金

このシナリオに資金報酬はありません。

名誉点

このシナリオに名誉点報酬はありません。

成長回数

8回